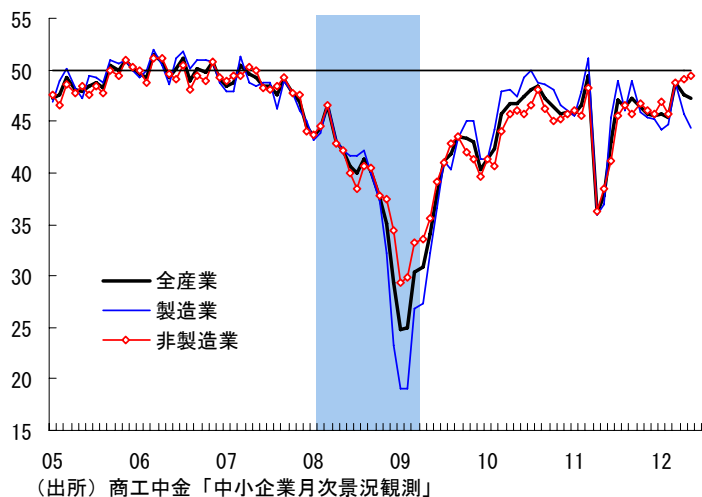


指標名：中小企業の業況(2012年5月)
～製造業と非製造業で明暗が分かれる～

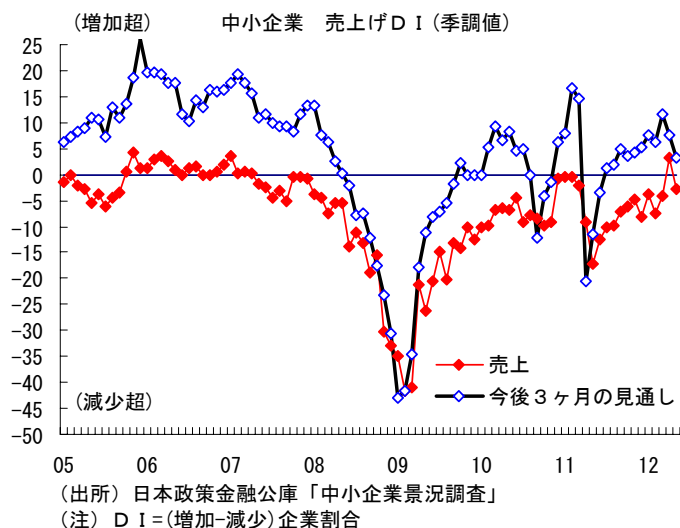
発表日2012年5月29日(火)

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 大塚 崇広
TEL : 03-5221-4525

景況判断指数 (中小企業月次景況観測)



中小企業 売上げD I (季調値)



○景況判断指数：製造業と非製造業で明暗が分かれる

商工中金から公表された5月の「中小企業月次景況観測」(調査時点：5月上旬)の景況判断指数(1000社調査)は、全産業で47.2(前月差▲0.4pt)と前月から小幅低下した。内訳としては製造業と非製造業で明暗が分かれており、製造業が低下した一方で非製造業が上昇している。製造業では、海外経済の回復が弱い中、再び円高が進行したことで輸出が下押しされるとの見方が増えたものと推察される。非製造業では、小売や飲食店・宿泊の上昇が目立っており、非製造業の業況が堅調な個人消費に支えられていることが窺える。

このように円高を主因に中小企業の景況感は小幅に悪化した。しかし、実体として足元の景気が悪化しているとまでは考えていない。日本政策金融公庫から公表された「中小企業景況調査」(調査時点：5月中旬)の売上げDI(季節調整値)は前月差▲6.0ptと低下したものの、前月の大幅な上昇と併せてみれば緩やかな改善基調で推移している。また、原油価格の上昇の一服により仕入価格DIは低下しており、利益額DI(季節調整値)も増加超を維持している。

